

# 静岡経済研究所 NEWS RELEASE

一般財団法人静岡経済研究所  
理事長 一杉逸朗  
静岡市葵区追手町 1-13  
TEL 054-250-8750  
FAX 054-250-8770

## 静岡県内主要産業の四半期見通し調査 (2017 年 7 ~ 9 月期)

産業景気は回復に向かいつつも、人手不足は深刻

『やや上昇』が 1 業種、『横ばい』が 19 業種の見通し

首都圏を中心とした好景気の恩恵に加え、外需が好調な輸出型産業を中心に静岡県内企業の足元の業況は上向きの状況にある。

今後については、人手不足が制約要因とはなるものの、引き続き輸出型産業や情報サービスなどをけん引役として県内産業景気は底堅いと見込まれ、総じて先行きは緩やかな回復が続く見通し。

なお、業種ごとの 7 ~ 9 月期の業界景気見通しは、主要 20 業種のうち「運輸・倉庫」が『やや上昇』で、残る 19 業種が『横ばい』の見込み。

『好調』はなく、『順調』が 3 業種、『普通』が 9 業種、『低調』が 7 業種、『不調』が 1 業種となる見通し。

業種	業界景気	
	現況 (4~6月)	見通し (7~9月)
製茶	● → ●	● → ●
食品・飲料	● → ●	● → ●
家庭紙	● → ●	● → ●
産業用紙	● → ●	● → ●
工作機械	○ → ○	○ → ○
民生用電器部品	● → ●	● → ●
自動車部品	● → ●	● → ●
二輪車部品	☂ → ☂	☂ → ☂
建設	● → ●	● → ●
住宅	● → ●	● → ●
大型小売店	● → ●	● → ●
食品スーパー	● → ●	● → ●
自動車販売	● → ●	● → ●
家電量販店	● → ●	● → ●
運輸・倉庫	● → ●	● → ●
情報サービス	○ → ○	○ → ○
外食	● → ●	● → ●
観光・レジャー	● → ●	● → ●
リース	● → ●	● → ●
人材派遣	○ → ○	○ → ○

担当：主席研究員 山崎 眞嗣



## 産業景気は回復に向かいつつも、人手不足は深刻

米国景気の拡大など海外経済の持ち直しから円安株高が続き、全般的には国内企業の景気は拡大を続けている。本県経済も、首都圏を中心とした好景気の恩恵に加え、外需が好調な輸出型産業を中心に足元の業況は上向きの状況にある。

今後の見通しについては、引き続き輸出型産業や情報サービスなどをけん引役として県内産業景気は底堅いと見込まれ、深刻な人手不足が制約要因とはなるものの、総じて先行きは緩やかな回復が続く見通し。

### (1) 業界景気の現況について

県内産業（主要20業種）の現況（2017年4～6月期）は、『好調』業種はなく、『順調』が「工作機械」「情報サービス」「人材派遣」の3業種、『普通』が「食品・飲料」「家庭紙」「民生用電器部品」「自動車部品」「建設」「自動車販売」「外食」「観光・レジャー」の8業種、『低調』が「製茶」「産業用紙」「住宅」「大型小売店」「食品スーパー」「家電量販店」「運輸・倉庫」「リース」の8業種、『不調』が「二輪車部品」1業種となった。

前回調査との比較では、『順調』1業種増加、『低調』が1業種減少した。『普通』から『順調』へ上がったのは、内需および中国を中心とした外需が好調な「工作機械」、『低調』から『普通』へ上がったのは、新型車効果で登録車が好調な「自動車販売」。

### (2) 業界景気の見通しについて

2017年7～9月期の景気見通しは、1業種が『やや上昇』、19業種が『横ばい』の見通しとなった。

『低調』から『普通』へと『やや上昇』が見込まれるのは、輸送用機器や食料品などの輸送量が好調で運賃引上げ機運が高まっている「運輸・倉庫」。

『横ばい』は19業種で、このうち『順調』が続くと見られるのが、内需では自動車向け、外需では中国向けが底堅い「工作機械」、SEが不足しているが案件は豊富な「情報サービス」、専門的スキルを要する分野で引き続きニーズが旺盛な「人材派遣」の3業種。

『普通』のまま『横ばい』と予想されるのは、ツナ缶需要が底堅い「食品・飲料」、価格交渉は難しいが生産量は維持する「家庭紙」、家庭用エアコン出荷台数が前年実績を確保見込みである「民生用電器部品」、欧米向け輸出が堅調に推移するとみられる「自動車部品」、契約額は前年を下回るも受注量自体は例年並みを確保する「建設」、SUVやコンパクトHVなどのモデルチェンジにより市場活性化が見込まれる「自動車販売」、夏の季節商品の伸長が期待される「外食」、首都圏からの観光客が見込まれる「観光・レジャー」の8業種。

一方、『低調』のまま『横ばい』が続くのは、二番茶の仕入コスト上昇が見込まれる「製茶」、製品価格へのコスト転嫁がすぐには進まない「産業用紙」、ローン金利が底打ちし需要の後押し材料に欠ける「住宅」、新店進出による顧客獲得競争が厳しさを増す「大型小売店」、ドラッグストアなどとの競合激化が見込まれる「食品スーパー」、デジタル製品が低迷する「家電量販店」、ユーザーである中小企業の設備投資マインドは堅調ながら停滞感を拭ききれない「リース」の7業種。

『不調』のまま『横ばい』を見込むのは、欧米向けの輸出がピークを過ぎた「二輪車部品」。

静岡県内産業の四半期ごとの業界景気の『現況』と『見通し』推移

年次		2014年		2015年				2016年				2017年		
四半期		Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ (今回調査)	
対象月(○は調査月)		7~⑨	10~⑫	1~③	4~⑥	7~⑨	10~⑫	1~③	4~⑥	7~⑨	10~⑫	1~③	4~⑥	
業界景気の『現況』	好調 ☀	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
	順調 ○	1	2	1	2	3	2	2	2	2	2	2	3	
	普通 ◐	5	4	4	3	5	7	7	7	7	7	6	8	
	低調 ☁	13	13	13	13	11	10	10	10	10	10	11	9	
	不調 ☂	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	全業種の平均階級値	2.30	2.35	2.40	2.45	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.45	2.55	2.65
	好調：5													
	順調：4													
	普通：3													
	低調：2													
不調：1														
業界景気の『見通し』	上昇 ↗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	やや上昇 ↗	2	0	2	2	0	0	1	0	0	2	0	1	
	横ばい →	18	20	18	18	20	20	19	19	20	18	20	19	
	やや下降 ↘	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	
	下降 ↘	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点（6月調査であれば4～6月期）における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期（6月調査であれば7～9月期）の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は、以下の通り。  
調査時点…2017年6月上旬  
回答企業…県内主要20業種（247社）

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、20業種の平均値。

2017年7～9月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

調査項目 業種	業界景気		静岡県内主要産業の見通し									
	現況 (4～6月)	見通し (7～9月)	生産量 (前対比伸び率 前4～6月期)	売上高 (前対比伸び率 前4～6月期)	生産量 (前年同 期比率)	売上高 (前年同 期比率)	操 業 度	需 給 バ ラ ン ス	製 品 在 庫 水 準	原 材 料 価 格 の 動 向  (前4～6月期対比)	製 品 価 格 の 動 向  (前4～6月期対比)	受 注 残  (ヵ月)
製茶	☁ → ☁	☁	—	—	—	→	○	均 衡	適 正	→	→	—
食品・飲料	○ → ○	○	→	→	↘	↗	○	均 衡	適 正	↗	→	0.5～1.0
家庭紙	○ → ○	○	→	→	→	→	○	均 衡	適 正	→	→	0.1～1.0
産業用紙	☁ → ☁	☁	→	→	→	→	○	均 衡	適 正	→	→	0.1～1.0
工作機械	○ → ○	○	→	↗	→	↗	○	均 衡	適 正	→	→	1.0～7.5
民生用電器部品	○ → ○	○	→	→	→	→	○	均 衡	適 正	→	→	1.0～3.0
自動車部品	○ → ○	○	→	→	→	→	○	均 衡	適 正	↗	→	0.1～3.0
二輪車部品	☂ → ☂	☂	→	→	→	→	◇	均 衡	適 正	↗	→	0.5～3.0
建設	○ → ○	○	—	↗	—	↘	○	均 衡	適 正	→	→	3.0～10.0
住宅	☁ → ☁	☁	—	→	—	→	○	均 衡	適 正	→	→	1.0～6.0
大型小売店	☁ → ☁	☁	—	→	—	→	—	供給超過	適 正	→	→	—
食品スーパー	☁ → ☁	☁	—	→	—	↘	—	供給超過	適 正	→	→	—
自動車販売	○ → ○	○	—	↗	—	↗	—	均 衡	適 正	→	→	—
家電量販店	☁ → ☁	☁	—	→	—	↗	—	供給超過	適 正	→	→	—
運輸・倉庫	☁ ↗ ○	○	—	→	—	↗	○	均 衡	—	→	→	—
情報サービス	○ → ○	○	—	↗	—	↗	○	需要超過	—	→	→	—
外食	○ → ○	○	—	↗	—	→	—	均 衡	—	↗	→	—
観光・レジャー	○ → ○	○	—	↗	—	→	—	供給超過	—	→	→	—
リース	☁ → ☁	☁	—	→	—	→	—	—	—	—	—	—
人材派遣	○ → ○	○	—	↗	—	↗	○	需要超過	—	→	→	—
〈特別調査 2017年7～12月期 半期見通し〉												
家具	☁ → ☁	☁	↘	↘	↘	↘	◇	供給超過	過 多	→	→	0.5～1.0
楽器	☁ → ☁	☁	→	→	→	→	○	均 衡	適 正	→	→	—

表の見方と注意

業界景気 現況 見通し	業界景気 見通し	生産量・売上高の伸び率 原材料・製品価格の動向	操 業 度	需給バランス	製品在庫水準
好 調 ☀	上 昇 ↗	非常に増加・上昇 (+10%以上) ↗	100～90% ◎	非常に需要超過	非常に過少
順 調 ○	やや上昇 ↗	増加・上昇 (+3～+9%) ↗	89～80% ○	需 要 超 過	過 少
普 通 ○	横 ば い →	横 ば い → (+2～△2%) →	79～70% ◇	均 衡	適 正
低 調 ☁	やや下降 ↘	減少・下降 (△3～△9%) ↘	69～60% ⊙	供 給 超 過	過 多
不 調 ☂	下 降 ↘	非常に減少・下降 (△10%以下) ↘	59%以下 ●	非常に供給超過	非常に過多

(注) 特別調査(家具、楽器)は半期ベース(1～6月期の現状と7～12月期の見通し、前期比・前年比もすべて半期ベース)。半期調査対象企業…2業種の企業15社。

## 主要業種の現況と7～9月期の景況見通し

業種	業界天気	二番茶相場の高止まりで製茶問屋の仕入コストは上昇
製  茶	☁  →  ☁	<p>(現況)・一番茶は天候不順で生育が遅れ、八十八夜商戦向けの仕入れを県内産で十分に手当てできないケースが目立った。販売機会を逃したことで、県内の製茶問屋の売上高は前年をやや下回り、減収減益となった模様。</p> <p>(見通し)・県内の製茶問屋の売上は前年並みの見通し。贈答需要はさえないが、ドリンク需要は底堅く、水出し冷茶の普及も家庭需要を底上げしそう。二番茶の仕入コストは上昇の見通し。繰越在庫が切れ、一番茶下物が不足し、生産を見送る農家が増えたことから、相場は高止まりするとみられる。</p>

業種	業界天気	原材料価格の上昇に伴い、製造コストの負担増加を懸念
食 品 ・ 飲 料	○  →  ○	<p>(現況)・県内の食料缶メーカーの売上高は、前年を+2～3%上回った模様。ただし、県内のツナ缶生産量は、タイなどの海外生産の増加に伴い前年を▲10%程度下回った。飲料缶は、ブランドオーナーからの受注が堅調で、前年を上回った。</p> <p>(見通し)・県内の食料缶メーカーの売上高は、前年を上回る見通し。海外生産の増加は続くとみられ、県内のツナ缶生産量は前年を下回る見込み。カツオなどの魚価の高値が続くほか、ボイラーなどの燃料費や資材価格も増加・上昇すると予想され、製造コストの負担増加が懸念される。</p>

業種	業界天気	ティッシュは輸入品の販売攻勢を懸念
家 庭 紙	○  →  ○	<p>(現況)・県内の家庭紙の生産量は、前年並みとなった模様。再生トイレ紙の生産量は前年並みで推移。コスト上昇に対応するため値上げを予定していたが、価格面はむしろ軟調気味。ティッシュも生産量は前年並みで、価格は前年をやや下回った。</p> <p>(見通し)・県内の家庭紙の生産量は、前年並みの見通し。再生トイレ紙は前年並みとなる見込み。パルプものの値上げの遅れから、中小再生紙ものの価格交渉も難航しそう。ティッシュも生産量は前年並み。輸入品が秋ごろから大々的なテレビCMを予定しており、攻勢に対抗するには価格面での妥協が必要か。</p>

業種	業界天気	段ボール原紙は飲料向けなど伸長、値上げも実現か
産 業 用 紙	☁  →  ☁	<p>(現況)・県内の産業用紙の生産量は、前年をやや上回った模様。段ボール原紙は、前年をやや上回った。5月に値上げを予定したメーカーもあったが、大手2社が追随せず断念した。白板紙の生産は前年並み。価格も横ばいが続いた。</p> <p>(見通し)・県内の産業用紙の生産量は、前年を上回る見通し。段ボール原紙の生産は、前年を上回る見通し。猛暑予測で飲料向けの伸長を見込む。遅れていた値上げも、徐々に進む見通し。白板紙は、前年並みとみられる。コストが上昇している中、ようやく値上げが実現する見通し。</p>

○好調 ○順調 ○普通 ☁低調 ☂不調 業界天気は上段が4～6月期、下段が7～9月期

業種	業界天気	メインの中国市場が回復、前年実績は上回る見通し
工作機械	○ → ○	(現況)・全国および県内の受注額は、前年を+15%程度上回って推移した模様。内需はものづくり補助金が追い風となり前年を+10%程度上回り、また、外需はメインである中国市場が回復し、前年を+20%程度上回ったとみられる。 (見通し)・全国および県内の受注額は、ともに前年実績を+5%以上上回って推移する見通し。内需は、補助金がピークを越えたことから効果が弱まる一方、自動車向けなどが底堅く、前年並みを確保しそう。外需は、メインの中国需要が引き続き伸びていることから、前年を+10%程度上回りそう。

業種	業界天気	気温が高い日が予想され、エアコン出荷は前年確保の見通し
民生用電器部品	● → ●	(現況)・県内の家庭用エアコンの出荷台数は、全国的に気温の高い日が続いたことが追い風に働き、前年実績を+5%程度上回ったとみられ、業務用も堅調に推移した。冷蔵庫も引き続き大型タイプがけん引し、前年実績を上回ったとみられる。 (見通し)・県内の家庭用エアコンの出荷台数は、前年実績は確保する見通し。天候不順が続いた昨年を踏まえ慎重な見方もあるものの、3か月予報では気温が高い日が予想されており、需要喚起の後押しに。冷蔵庫と洗濯機は、引き続き省エネ・高機能製品が下支えして、前年並みは確保しそう。

業種	業界天気	国内販売・輸出ともに堅調、県内生産量は前年並み
自動車部品	● → ●	(現況)・全国の自動車生産台数は、前年を+10%程度上回った模様。前年4月の熊本地震による減産の反動が中心だが、国内販売・輸出ともに堅調に推移した。県内部品メーカーの生産量も、前年実績を上回ったとみられる。 (見通し)・全国の自動車生産台数は、ほぼ前年並みで推移する見通し。国内販売は、登録車の新型車を中心に好調が続いており、軽自動車も回復傾向にある。輸出は、欧米向けを中心に堅調に推移するとみられる。県内部品メーカーの生産量は、前年並みを確保する見通し。

業種	業界天気	国内生産は前年を上回るも、県内生産量はほぼ前年並み
二輪車部品	☂ → ☂	(現況)・全国の完成車生産台数は、前年実績を大きく上回った模様。ただし、これは前年の熊本地震による反動によるもので、他県の生産拠点が中心。県内部品メーカーの生産量は、ほぼ前年並みで推移したとみられる。 (見通し)・全国の完成車生産台数は、前年の熊本地震による減産の反動が続く、前年を上回って推移する見通し。輸出は、メインである欧米向けのピークが過ぎ、全体的に低調に推移する見通し。県内部品メーカーの生産量は、ほぼ前年並みで推移するとみられる。

○ 好調 ○ 順調 ● 普通 ● 低調 ☂ 不調 業界天気は上段が4～6月期、下段が7～9月期

業種	業界天気	公共は前年の反動受け減少、民間も不冴え
建設	○	(現況)・県内の公共工事契約額は、前年を大きく下回った模様。前年に公団関連の大型道路工事の契約が続いたため、反動減となった。民間の工事費予定額は、物流関連施設の着工が集中し、前年を上回ったとみられる。
	→	(見通し)・県内の公共工事契約額は、前年を下回る見通し。国、県が上半期の公共事業発注目標を年間発注の8割としていた前年に対し、反動減が見込まれるも例年の受注量は確保。民間の工事費予定額については、大学のキャンパスや物流センターなど、大型案件の着工が集中した前年の水準を下回る見通し。

業種	業界天気	ローン金利の影響で持家は反動減、貸家も飽和感強く弱含む
住宅	☁	(現況)・県内の持家新設着工戸数は、前年を上回った模様。着工戸数が低水準で推移した前年に対し、実質賃金上昇への期待感などが消費者の住宅取得意欲を後押ししたとみられる。貸家は、市場に飽和感がみられ、前年を下回った模様。
	→	(見通し)・県内の持家新設着工戸数は、前年をやや下回る見通し。前年は各金融機関が固定型住宅ローンの金利を過去最低水準まで引き下げたこともあり、1千戸/月を越す着工水準で推移したことから、反動減が予想される。貸家も、市場の飽和感が引き続きマイナス要因となり、前年を下回るとみられる。

業種	業界天気	米国の会員制スーパー出店で、顧客獲得競争が激化
大型小売店	☁	(現況)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年をやや上回った模様。百貨店は、衣料品は前年をやや下回ったが、宝飾品や雑貨類、化粧品が好調で、前年をわずかに上回った。GMSは主力の飲食料品が底堅く推移し、前年実績を確保した。
	→	(見通し)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年並みで推移する見通し。百貨店は、株高による資産効果で宝飾品などの販売増加が期待され、前年水準を確保する見通し。GMSは、9月に米国の会員制スーパーが県内に初出店し、県西部を中心に顧客獲得競争が激しさを増すとみられる。

業種	業界天気	ドラッグストアの出店攻勢受け、前年をやや下回る見通し
食品スーパー	☁	(現況)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年をわずかに下回った模様。農産物は前年並みで推移したが、水産物はカツオやマグロなどの不漁で品薄が続き前年を割り込んで推移した。肉類も、牛肉や豚肉の相場高で振るわなかった。
	→	(見通し)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年をやや下回る見通し。昨年以降新規出店攻勢を強めるドラッグストアなどの競合激化により、来客数の減少が懸念される。各社ではイトインコーナーの設置、惣菜やPB商品をはじめとした品揃えの拡充などを通じて、テコ入れを図る計画。

○好調 ○順調 ○普通 ☁低調 ☂不調 業界天気は上段が4～6月期、下段が7～9月期

業種	業界天気	主力車種の改良続き、登録車、軽ともに前年を上回る見通し
自動車販売	○ → ●	(現況)・県内の乗用車販売台数は、前年を+14%上回った。登録車は、昨冬発売の小型H VやS U Vの販売が好調で、前年比+12%となった。軽自動車は、燃費問題で特定車種が販売停止となっていた反動で、前年を+19%上回った。 (見通し)・県内の登録車販売台数は、前年をやや上回る見通し。各メーカーはS U Vやコンパクトカーのモデルチェンジを順次進めており、受注も堅調に推移するとみられる。軽自動車も、軽自動車税増税や燃費問題による市場の低迷が一巡したことに加え、人気車種改良の効果もあり、前年を上回る見通し。

業種	業界天気	4 Kテレビや洗濯機の販売増加で、前年をやや上回る見通し
家電量販店	● → ●	(現況)・県内の家電販売額全体は前年をやや上回った模様。薄型テレビの販売は前年並みで推移したが、生活家電関連は洗濯機や冷蔵庫の高性能モデルへの買い替え需要で堅調に推移した。5月から気温の高い日が続き、エアコンも好調に推移した。 (見通し)・県内の家電販売額全体は前年をやや上回る見通し。薄型テレビは、4 Kテレビの価格低下でボーナス商戦の盛り上がり期待される。洗濯機はまとめ洗いに対応した大容量モデルの需要拡大が見込まれる。一方、スマートフォンとの競合激化で、デジタルカメラやパソコンは低迷が続く見込み。

業種	業界天気	トラック輸送量は前年をやや上回る見込み
運輸・倉庫	● → ●	(現況)・県内のトラック輸送量は、輸送用機器や紙・パルプ、食料品などが堅調に推移し、前年水準をやや上回った模様。普通倉庫の入出庫高は、主力の紙・パルプや飲料などの荷動きが堅調だったことから、前年を+5%程度上回ったとみられる。 (見通し)・県内のトラック輸送量は、輸送用機器や食料品などが堅調に推移するとみられ、運賃値上げの機運も高まるなど、前年をやや上回って推移する見通し。倉庫の入出庫高については、夏場の天候にもよるが、飲料や電気機械などの荷動きに期待がかかり、前年水準は確保できる見込み。

業種	業界天気	首都圏からの案件を見込み、売上高は前年水準を上回る
情報サービス	○ → ○	(現況)・全国の売上高は、主力のソフト開発やシステム等管理運営受託が堅調に推移し、前年を+3%程度上回った模様。県内も製造業の生産管理システムや小売業の流通システムなどの案件が増加し、前年をやや上回ったとみられる。 (見通し)・全国の売上高は、主力のソフト開発が堅調に推移するとみられ、前年を+3%程度上回る見通し。県内も、首都圏からの案件を見込んでおり、前年水準をやや上回る模様。ただし、S Eが不足しており、案件があっても受けられないケースが懸念される。

○好調 ○順調 ●普通 ●低調 ☂不調 業界天気は上段が4～6月期、下段が7～9月期

業種	業界天気	来店客は増加、夏の季節商品は暑さで伸長
外 食	○	(現況)・県内の主要外食店の売上高は、前年をやや上回った模様。ファストフード店やファミリーレストランの新メニューが好評で来店客数が増加した。県西部では大河ドラマに関連してランチ需要が伸びており、売上高を押し上げた。
	→ ●	(見通し)・県内の主要外食店の売上高は、前年をやや上回る見通し。3か月予報では、高めの気温が予想されており、冷やし中華やうなぎ蒲焼きに代表される季節商品は前年を上回る見込み。大手チェーン店のテレビCM投入量が増えており、来店客数の増加基調は続く模様。

業種	業界天気	首都圏需要が回復し、海水浴需要で上積みか
観光・レジャー	○	(現況)・県内主要旅館の総売上高は、前年を上回った模様。昨年は熊本地震後に旅行自粛ムードが広がったが、その反動増で今年はプラスとなった。浜松市周辺では大河ドラマの舞台を巡る観光客が増加した。
	→ ●	(見通し)・県内主要旅館の総売上高は、前年をやや上回る見通し。最大7割引で注目を集めた熊本地震対策の「九州ふっこう割」がないため、首都圏需要は戻ってくる見込み。3か月予報では高めの気温が予想されており、海水浴需要を取り込むことができればさらなる上積みも見込めそう。

業種	業界天気	大・中堅企業の投資意欲は堅調で、前年をやや上回る見通し
リ ー ス	●	(現況)・県内のリース件数・契約高は、前年をやや上回った模様。企業収益の改善を背景に、製造業を中心に生産性の向上に向けた設備投資が実施された。ただし、県内市場は価格競争が恒常化するなど、厳しい市場環境が続いている。
	→ ●	(見通し)・県内のリース件数・契約高は、前年をやや上回る見通し。国内外の先行き不透明感が強まっているものの、引き続き大・中堅企業を中心に投資マインドは堅調に推移する見込み。顧客の幅広いニーズに応えるべく、新事業参入を検討するリース会社が増えるとみられる。

業種	業界天気	製造業、介護、ITなどの分野で高いニーズ
人材派遣	○	(現況)・県内の実働派遣労働者数は、前年を+5～10%上回った模様。販売業務、一般事務業務、製造業務など幅広い分野で旺盛な需要が続いた。しかし、供給サイドの人材確保は厳しい状況が続いており、実績は伸び悩んだとみられる。
	→ ○	(見通し)・県内の実働派遣労働者数は、前年を+5%程度上回って推移する見通し。製造業を中心に人手不足感が高まっており、介護やITなど専門的なスキルを要する分野で高いニーズがあるとみられる。一方、供給サイドの人材不足は解消せず、実績は前年をやや上回るにとどまる見込み。

○好調 ○順調 ●普通 ●低調 ☂不調 業界天気は上段が4～6月期、下段が7～9月期

業種	業界天気	主要販売先の売上不振により、出荷額は前年割れを見込む
家具(半期ベース)	  	<p>(現況)・県内の木製家具出荷額は、前年実績を下回った模様。全国の1～6月期新設住宅着工戸数は、前年を上回って推移したものの、主要販売先の卸・小売向けの売上が低調だった。一方、仏壇メーカーなどからのOEMは堅調に推移した。</p> <p>(見通し)・県内の木製家具出荷額は、前年水準を下回る見通し。全国の7～12月期新設住宅着工戸数は前年を下回るとみられる。ネット通販と低価格帯家具の人気に押され、卸・小売向けの売上は前年を下回る模様。県内家具メーカーでは、販路拡大に向けてネット通販や住宅メーカーと連携した商品提案が増える見込み。</p>

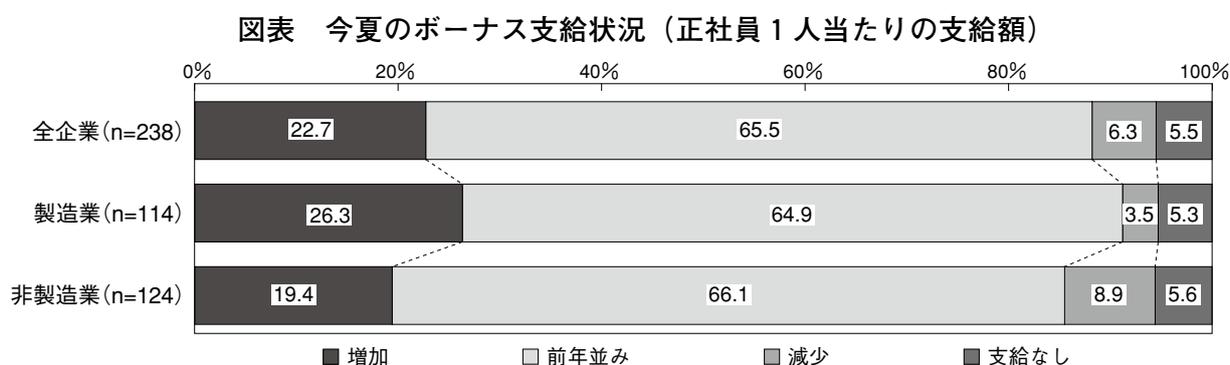
業種	業界天気	中国向けはピアノに加えギターや電子ピアノも伸長を期待
楽器(半期ベース)	  	<p>(現況)・楽器販売額は、概ね前年並みとなった模様。国内はほぼ前年水準。主力のピアノは前年並み。電子オルガンは前年を上回ったが、ギターに一服感が出てきており、電子キーボードやシンセサイザーは前年比減少。海外も前年並みで推移した。</p> <p>(見通し)・楽器販売額は、国内・海外とも前年並みとなる見通し。国内は、5月に新製品が発売された電子ピアノなどの伸びが期待される。海外は、中南米などは伸び悩むとみられるが、北米では景気回復に伴う販売増が期待でき、中国は従来から好調なピアノに加えギターや電子ピアノが伸びそう。</p>

○好調 ○順調 ⊖普通 ●低調 ☂不調 業界天気は上段が1～6月期、下段が7～12月期

## 今夏のボーナス支給額「増加」企業は、昨年冬より▲4.2ポイント下回る

県内企業に、今夏のボーナス支給状況について聞いたところ、前年より「増加」と回答した企業は22.7%と、昨年冬（2016年12月調査：26.9%）を▲4.2ポイント下回った。「減少」も6.3%と昨年冬（7.3%）から▲1.0ポイント下回り、「前年並み」が65.5%と昨年冬（61.6%）を+3.9ポイント上回った。

業種別にみると、円安により外需が好調な輸送用機械器具などを中心とした製造業で「増加」が26.3%（昨年冬30.1%）と、人手不足などで事業環境が厳しい非製造業の19.4%（同23.8%）を+6.9ポイント上回った。



調査要領：調査時点2017年6月、調査対象企業数615社、回答社数238社、有効回答率38.7%